

後、立てるようになって状況確認を始めた。その確認のときに炉圧が下がっているという確認がとれたので、ICを止めるという操作に入ったということです。なので敦賀ですと地震はありませんので、下がっている段階で確認がとれて手動で操作ができたということではございますが、今回の場合は確認をした時点で既に炉圧が下がっている、イコール温度が下がっているということで停止動作に入ったというところで違いが出てございます。

○渡邊グループリーダー もう一点なんですけれども、今、止めたという話はわかりました。ICに限った話ではない。要するに冷却速度だけを見ていた。そのときに、まだその段階だと水位は多分はかかれていたとか、見られていたのかなという気がするんですが、もともとの手順だとHPCIを動かすことを前提にしているということであれば、止めた段階でHPCIを動かすということは頭の中になかったのかどうか。要するに止めてHPCIを動かしていれば、また別な展開になっていたなという気がするんですけれども、手順を見る限りではHPCIを優先するという形になっているので、どうもそこが解せないんです。

○古作事故故障対策室（班長） HPCI優先なのは全交流電源喪失なんですけれども、当初はまだ交流があり、手順としてはその前のスクラムでMSIV閉というものだったので、これは圧力制御というところで。

○渡邊グループリーダー MSIV閉を伴う原子炉スクラムにはICは手順書の中に出てきていないんです。

○古作事故故障対策室（班長） 表題にはないんですけれども、運転員の操作のところにはICまたはSRVとなっています。

○渡邊グループリーダー フローチャートにはないんですよ。

○古作事故故障対策室（班長） 手順書の流れのところにはあるんです。

○渡邊グループリーダー 記載の中にはあるんですか。

○古作事故故障対策室（班長） あるんです。

○渡邊グループリーダー フローチャートにはなくて。

○古作事故故障対策室（班長） はい。なので、言われるようにSRVを基にしているんだろう意識を感じます。ですが、そのSRVで圧力制御、圧力調整という項目の中には、操作の中にICまたはSRVと書いてございます。実際、今回はICが作動していましたので、それでICを継続して使うことになったということでございます。

○渡邊グループリーダー ということは、フローチャートそのものが全交流電源のところにはSRVまたはICとちゃんとフローチャートに書いてあるのに、要するにMSIV閉スクラムのときにはそれが書いていないということなんですね。

○古作事故故障対策室（班長） もう少しちゃんとお話をしますと、スクラムのところの手順に項目では原子力圧力調整となつてございまして、当直長のところはSRVによる原子炉圧力制御指示となつておるんですが、操作員Aの操作内容としては、SRVを順次「手動開」または非常用復水器使用により原子炉圧力「7.6MPa」～「6.27MPa」に維持、実施報告と書いてございまして、実態としては両方どちらか選択して使えるところになってございまして。表記上どうかというところはございますが。

○渡邊グループリーダー SBOのときと書き方は違っているのですか。

○古作事故故障対策室（班長） そうですね。ここの内容でも部分によって書き方は変わりますので、そこはICを使える状態にはなつてございます。